



Yoka
Nurse
Fukuoka

よか・ナース

ふくおか

2019
新春号
Vol.124



[特集] 子育てと 仕事の両立

福岡大学筑紫病院
鳴海 興亮さん

〈P02-03〉

新年のごあいさつ

福岡県へ予算・政策に関する要望書を提出

〈P04-05〉

第18回福岡県看護学会

いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護実践

～人が好き、看護が好き、社会に活かす看護のちから～

〈P06-09〉

[特集]子育てと仕事の両立

充実した子育て支援が人材を育む職場へ

インタビュー 福岡大学筑紫病院/福岡赤十字病院

〈P10-12〉

実践力育成研修「今、求められている外来看護とは」

スキルアップ研修「退院調整看護師育成コース」

平成30年度福岡県看護教員継続研修

平成30年度入会者数 (平成30年12月16日現在)

保健師……………766名 看護師……………37,951名

助産師……………971名 准看護師……………2,305名

計 41,993名

【発行】公益社団法人 福岡県看護協会

【発行責任者】会長 花岡 夏子 【発行日】平成31年1月15日

〒812-0054 福岡市東区馬出4-10-1 ナースプラザ福岡

TEL:092-631-1141(代表) FAX:092-631-1142 <https://www.fukuoka-kango.or.jp/>



充実した子育て支援が人材を

子育てと仕事にやりがいを持って働く看護師をご紹介します。

夫婦で調整し家族の休日も楽しんでいきます。

福岡大学筑紫病院

看護師 **鳴海 興亮**さん



〈プロフィール〉

看護師の母親の影響もあり医療従事者への道を選ぶ。大分県立看護科学大学卒業。平成25年福岡大学筑紫病院に就職。小児病棟で2年半、現在は集中ケアセンター（HCU）に所属、6年目となる。1児のパパ。

医療系の仕事に就きたいと思い、看護師の母と話をすることで、人と接しながら働ける看護師の道を選びました。就職後は、小児病棟で2年半経験を積んだ後、現在の集中ケアセンターへ異動しました。重症の患者様の全身管理、術後の管理を行い、救急外来も担当部署としての仕事を行っています。

妻も看護師なのですが、出産後の再就職の際に、院内の保育園を利用することにしました。日勤の時は、私が子どもと病院に出勤し保育園に預け、17時にお迎えに行き一緒に帰宅します。夜勤の時は、妻が迎えに行くようにしています。院内保育園は、病気の時などすぐに駆けつけてあげられるし、何といても病院ですぐに診てもらえることが心強いです。子どもも近くにパパがいることがわかっていて安心しているみたいです。

職場は、子育てしながらも働きやすい環境なので助かっています。子ども手当などの経済的支援のほか、子育てしながら働くママの集まりもあり、他部署との情報交換もできます。最も力を入れているのは、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みで、残業時間を減らすように各病棟でスタッフ自らが協力し合い取り組んでいます。妻の出産が近づいた時には、特別休暇を7日間いただいたお陰で出産に立ち会うことができました。各自の希望に合わせて休みを調整してくれる体制も有り難いです。夫婦間では、子どものお迎えにきちんと行けることや、休みを合わせて家族の時間が取れるように、また、妻のプライベートの時間も取れるように工夫しています。時間が取れないといったストレスはありません。職場ではみんなと協力し合い、そして家庭では妻と調整しながら育児と仕事を楽しく両立していきたいと思っています。

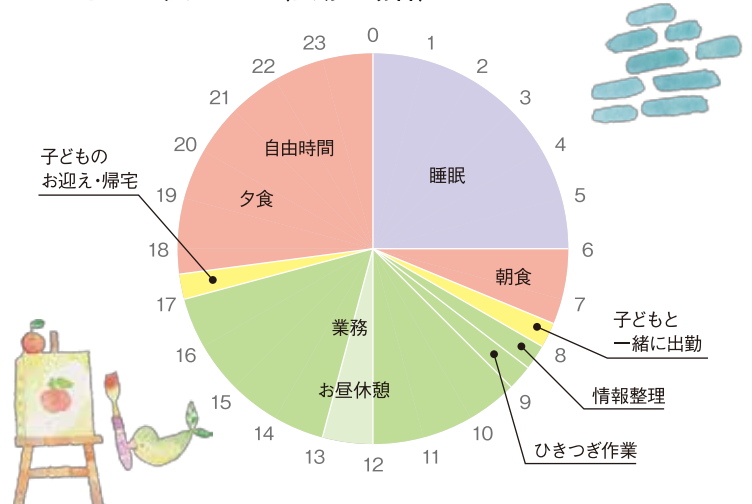
集中治療室は大変な仕事現場ですが、積極的に経験を積み、これからは後輩の育成にも力を入れていきたいです。また、救急看護



のプロフェッショナルとして救急分野の資格取得も考えています。「患者様が第一」というモットーを大切に、小児病棟で身につけたスキルも活かし、一人ひとり丁寧に向き合っていきたいと思います。働きやすい職場環境をみんなで作り、やりがいを持って働き、プライベートも充実させていきたいです。



■1日のスケジュール(日勤の場合)



育む職場へ。



「人間性豊かな患者中心の看護の実践-誠実・責任・創造-」の看護部理念実現のために

長く働ける環境づくりが 看護の質向上とスタッフのやりがいに繋がる。



看護部長
樋口 靖子さん



副看護部長
福本 洋美さん

平成25年5月に新病院が開設し、看護師を増員して体制を整えることになりましたが、新採用看護師が全体の33%を占めることとなり、大きな揺らぎが発生しました。「ともに在り続ける」環境を整えるために、福岡県看護協会が行っていたワーク・ライフ・バランス推進事業に参画することを決めました。

お互いを思いやるビジョンのもと、具体的には「ベテラン看護師にしわ寄せがないようにすること」「結婚、出産後も働けること」「時間外勤務を減らすこと」を目標としました。活動は、各部署から経験年数の違うスタッフやママさんナースが集まり、スタッフから発信するようにしました。まず、残業時間を減らすために、毎日1人NO残業デーの人を決め、朝のミーティング時からワッペンをつけてわかりやすくしました。加えて、リリーフ体制の強化にも努めました。協働体制の組織力を高めることを目的とし、リリーフ要請部署とリリーフ部

署、それぞれの役割を明確にしました。この取り組みによって3年間で残業時間を半分ほどに減らすことができました。現在、力を入れているのは、PNSです。ペアで患者様の状況を把握しているため引継ぎもスムーズになり帰りやすくなります。育児休業明けの看護師や新人看護師にとっても、私のペアがいるという安心感は心強いようです。

新病院になり院内保育園も設置されました。看護師はもちろん、医師、薬剤師など利用者は20名程になっています。保育園は、増員できるよう2019年9月に新しく建て替えが決定しています。先輩ママさんから、復帰までの準備や復帰後のアドバイスを聞くことができるママさん会も開催しています。既婚率が上がる中、辞めずに働くママさんの割合も増えているのは数字に現れています。

ワーク・ライフ・バランスは、長く働ける職場環境の整備を目標としています。この根底には、看護の質を上げ、理念実現を目指すということがあります。

鳴海さんも、ライフもワークも大事にして、プロフェッショナルとして輝き続けてほしいと願っています。



「あたたかい医療」を理念に質の高い医療で地域へ貢献。

平成25年、福岡大学筑紫病院は新病院をオープンさせ、これまで以上に大学病院、地域医療の中核病院として筑紫医療圏への貢献活動を展開しています。救急医療の充実、難治疾患へ対応する集中ケアセンター（SCU・HCU）、小児病棟を充実させ、中央診療部門として内視鏡部、放射線部、手術部が拡充されました。また、リハビリテーション部を新設し、各種疾患に

対するリハビリテーションを行える体制を整え、炎症性腸疾患センターや脳卒中センター、緩和ケアセンターも開設しています。

今年度からは、地域医療支援センターに在宅支援室を設置し、急性期病院としての退院後訪問等の在宅支援に力を入れ、「あなたに出会えてよかった」と思われる病院を目指しています。

地域医療支援病院 地域がん診療病院

福岡大学筑紫病院

■福岡県筑紫野市俗明院1-1-1

■TEL 092-921-1011 (代表) ■<http://www.fukuoka-u.ac.jp/chikushi/>